

分類	主な意見の概要	事業者の見解
陸上動物 (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> ヤエヤマオオコウモリについて、全くといっていいほど調査がされていない。調査を行い結果を公表すべき。 沖縄県希少種のヤエヤマオオコウモリの生息状況、生息数、繁殖コロニーの有無、移動した場合の影響などの調査をするべき。また、生息数によっては、バードストライクの可能性もあり、航空機安全運行の観点からも生息状況を調査すべき。 ヤエヤマオオコウモリの影響調査を含めて生息の調査が行われていない。 航空機との安全航行の面からもヤエヤマオオコウモリの生息の状況の調査と影響調査を実施すべきである。 	<p>ヤエヤマオオコウモリについては、陸上動物の項目で調査をおこなっており、カタフタ山などの残丘樹林地や二次林などにおいて生息を確認しており、確認地点は資料編に記載しております。</p> <p>なお、主要な生息環境である残丘樹林地の伐採は少なく、また、工事は極力負荷を与えない人力作業を基本とし、地形改変面積を可能な限り減少させることにより、生息環境の減少による影響はほとんどないものと考えています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 鍾乳洞に関する総合的かつ詳細な調査（他の洞窟生物等）を行わず、希少コウモリだけに偏り、それに対しても適切でない取り扱いですませている。 洞窟生物に対する影響評価が欠落している。 コウモリをはじめとする、洞窟生物の生息環境である鍾乳洞の形状、連続性、水分条件は把握されているとは言い難く、残る自然洞における希少コウモリに対する環境保全措置の効果においても重大な疑問がある。 	<p>洞窟性生物調査は、平成13-15年度の3ヶ年度行っており、確認された種数及び洞口付近の照度・温湿度・地形と共にp6-9-24,25に示しており、資料編 付表-6.9(1)-(5)、(9)に示しています。洞窟内の温湿度はp6-2-163,164に示しています。</p> <p>確認された種のほとんどは、洞窟を一時的に利用する好・迷洞窟種であり、洞窟内でのみ生活する真洞窟性と考えられるものは3種です。うち2種は琉球列島の広範分布種であり、他1種は石垣島固有と考えられるバツタ類ですが、改変されない洞窟を含め全ての洞窟で比較的多数確認されました。これらのことを評価し、環境保全措置については、基本的に外界と隔離された特殊な生態系であることから、他洞窟への移動は遺伝子攪乱を招くことが想定され実施しない方向で検討しました。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 個体群そして種の存続にどのような影響を与えるか十分な検討がされていない。 空港建設で約70種が消滅するが、このことが個体群そして種の存続にどのような影響を与えるか十分な検討がない。 	<p>準備書p6-8-40、41に示すとおり、土地改変に係る影響については、個体群としての保全を目標とし、種ごとに県内、島内、事業実施区域周辺における生息、生育状況を考慮し、個体の消失が事業実施区域周辺の個体群の存続に影響を及ぼす可能性が考えられる場合についてのみ移動・移植などの環境保全措置を講ずることとしました。予測結果はp6-8-64~66に示すとおりです。</p>